

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室
大項目	4 教育研究組織(研究科)《全学的な視点》	
中項目		
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。	
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1)研究活動の状況	
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。	
要素		

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 定員充足率を改善する	→定員充足率	C	C	C	C	C
2. 課程博士取得率を改善する	→課程博士取得率	B	B	B	B	C
3. 学位取得に要する平均年数を短縮する	→学位取得平均年数	D	D	D	D	D

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

##### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 各研究科において学部との連携活動や説明会、広報活動の検討などに取り組んできた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2014年度の定員充足率は博士課程前期64%(2013年度80%)、博士課程後期49%(同63%)全体で56%で前期後期ともに低下している。特に後期課程では多くの研究科で定員を満たしていない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 各研究科において具体的な方策を検討すると同時に、大学院生への奨学金や授業料免除等経済的支援や学会発表等研究助成、プレゼンテーション講座の充実等を推進してゆく。(また定員見直しについても検討をはじめてゆく。)	☆
		その他	
			☆

目標2	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学位審査プロセスの明確化を図るために全研究科で学位審査基準を制定するなど改善に努めてきた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度は取得率14.3%であったが、2014年度は8.9%と悪化している。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 複数指導体制、経済的支援、研究助成等の施策を引き続き実施してゆく。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	D	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 一部の研究科では、著しい業績を上げた学生に対して課程の期間短縮制度を導入した。また、大学院生の奨学金の拡充、海外研究発表に対する助成等の施策を実施してきた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2009, 2010年を比較してみると、ともに6年以内取得者数は29名である。2009年の平均学位取得年数は4.59年であったが、2010年は4.62年であり、あまり変化は見られない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 各研究科において具体的な方策を検討すると同時に、指導体制の充実策を検討してゆく。	☆
		その他	☆
			☆
備考		☆	